

第2回

Z世代と世界のサステナブル先端事例に学ぼう!

教えてサステナブル WORLD

スウェーデン大使館共催
対話型ワークショップ

報告書



2022年8月25日
一般社団法人SWITCH

第2回「教えてサステナブルWORLD」実施報告

Z世代と「駐日スウェーデン大使」「ボルボ・カー・ジャパンCEO」がサステナブルを考える対話型ワークショップ



開催日時 2022年8月25日（水）18:00～21:00

開催形態 対面開催

参加対象 大学生・20代限定

参加者合計 118名

会場 SHIBUYA QWS スクランブルホール（東京都渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア15階）

開催言語 日本語＋英語（登壇者部分は日本語への同時通訳あり）

Guest Speakers



駐日スウェーデン大使
ペールエリック・ヘーグベリ大使

2019年秋に着任。駐日大使着任前の3年間は、駐ベトナム大使を務める。スウェーデン外務省アフリカ局局長、スウェーデン芸術評議会国際部課長および在南アフリカスウェーデン大使館一等書記官などを歴任。



ボルボ・カー・ジャパンCEO
マーティン・パーソン氏

1971年、スウェーデン生まれ。1996年、交換留学で初来日。翌年帰国し、リンシャーピン大学大学院理学修士号、ボルボ大学院開発プログラムを取得。1999年、ボルボ・ジャパンに入社。キャリアを積み、2008年、本国のボルボ・カー・コーポレーションのグローバルCRM責任者に就任。その後、ロシア、中国に赴任し、ボルボ・カー・ロシア社長などを経て、2020年10月から現職。

ファシリテーター



SWITCH 代表理事 **佐座 マナ 氏**

1995年生まれ。ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン大学院 サステナブル・ディベロプメントコース在学中。Mock COP グローバルコーディネーターとして、140カ国の環境専門の若者をまとめ、COP26と各国首相に本格的な18の政策提言を行い、世界的な注目を浴びる。COP26日本ユース代表。

■ 概要

サステナブル先進国の大使や企業のリーダーに登壇いただき、Z世代からの質問にリアルタイムに答えていただく対話型ワークショップ。今後も定期開催を予定。

■ 開催の目的

対話を通して、サステナブル化に成功している国に、どのような歴史や文化、社会の仕組みがあるか、知識にとどまらない生の声を通してリテラシーを向上することを目的としている。

■ タイムテーブル

17:30	受付開始
18:00	トークセッションスタート
	<p>SESSION 1 ヘーグベリ駐日スウェーデン大使 モビリティのサステナブルな未来</p> <p>スウェーデンの歴史と文化が、どのように世界最先端のサステナブル大国になることを可能にしたか、持続可能な未来に向けたスウェーデンのモビリティ戦略についてもうかがいました。</p> <p>SESSION 2 ボルボ・カー・ジャパン CEO パーソン社長 2030年までにEV車100%! Volvoのモビリティの未来とは？</p> <p>Volvoの歴史と「2030年EV車100%」という目標を掲げるに至ったブランドストーリーのシフト。サステナブルなモビリティ社会を目指しチャレンジしている事例の数々をご紹介します。</p>
19:00	登壇者とのディスカッション
	参加者からの質問に、登壇者がその場で次々と回答する、ライブ感覚のディスカッションでした。
20:00	フィーカ／交流タイム
21:00	解散

主催



一般社団法人SWITCH

共催



スウェーデン大使館

共催



SHIBUYA QWS

協力

VOLVO

ボルボ・カー・ジャパン株式会社

■ 運営形態

会場での対面開催

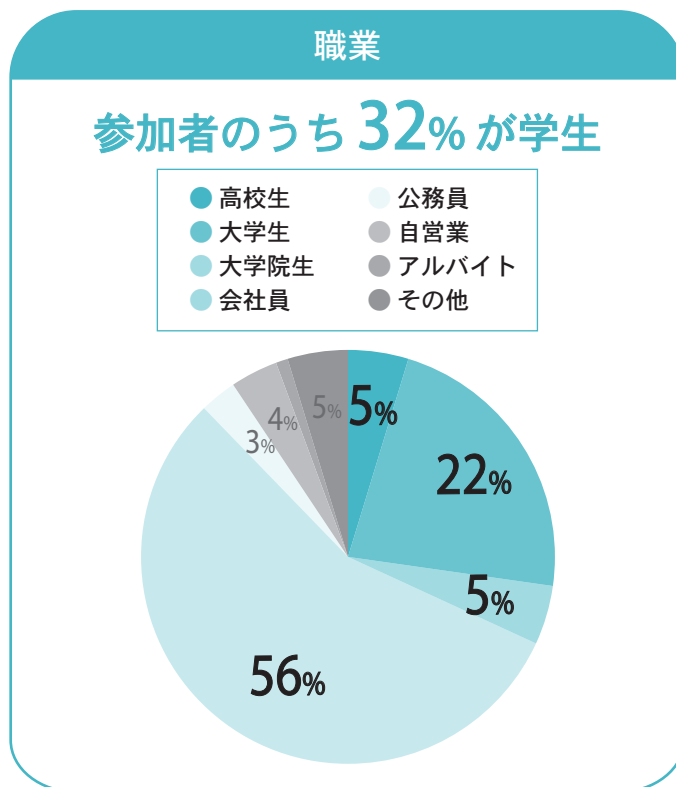
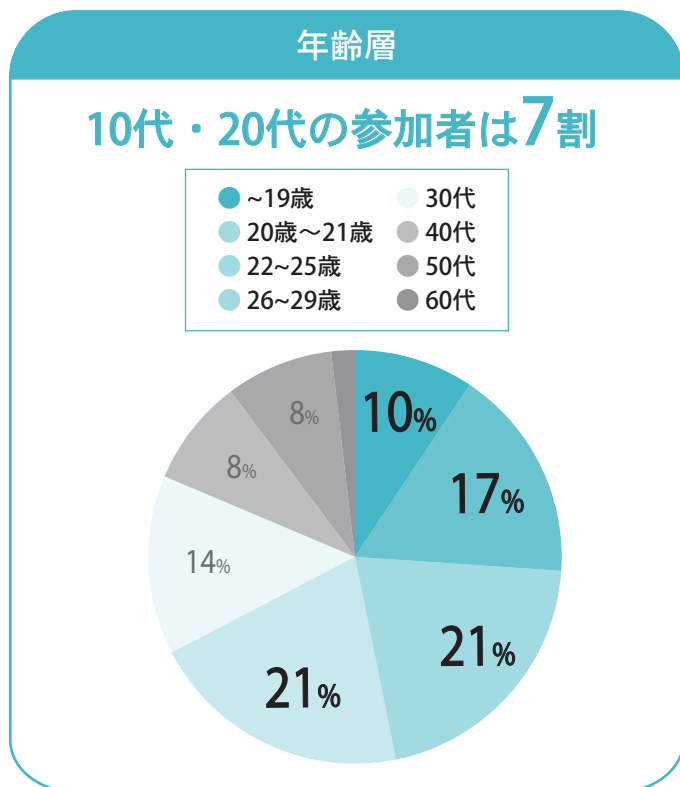


■ ギャラリー～ 当日の会場の様子～



■ 参加登録者データ

※会場での対面開催



所属する教育機関・団体

<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京大学 ・ 早稲田大学 ・ 慶應義塾大学 ・ 上智大学 ・ 青山学院大学 ・ 立教大学 ・ 中央大学 ・ 一橋大学 ・ 同志社大学 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際基督教大学 ・ 宇都宮大学 ・ 福島大学 ・ 聖心女子大学 ・ 聖学院中学高等学校 ・ 富士見丘高等学校 etc... 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外務省 ・ 富山県庁 ・ 東京電力グループ ・ JR東日本企画 ・ 株式会社日立製作所 ・ 株式会社博報堂 ・ NOK株式会社 ・ 朝日新聞社 ・ 株式会社明治 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森永市場開発株式会社 ・ 三井不動産株式会社 ・ 三井物産株式会社 ・ Samsung ・ Goldman Sachs ・ 大分県東京事務所 ・ エスビー食品株式会社 ・ 株式会社富士通ゼネラル ・ 第一生命ホールディングス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東急株式会社 ・ 伊藤忠商事株式会社 ・ パタゴニア日本支社 ・ Allbirds合同会社 ・ 株式会社IHI ・ IKEAジャパン株式会社 ・ エルメスジャポン株式会社 etc...
--	---	--	--	---

■ 今後の課題

集客について

今回は前回開催の「第1回教えてサステナブルWORLD」よりも、規模の大きい会場で、対面のみでの開催。会場の定員もあり、参加者合計は前回よりも減少した。しかし10代・20代の参加者は前回よりも12.3%多く、より多くの若者へリーチした。しかし会社員の若者は増加したため、今後は学生の集客に注力する。

内容について

今回はトークテーマを「サステナブルなモビリティ」に絞ったため、ディスカッション時もモビリティや原子力発電に関する質問が多くあった。イベント後のアンケートでは、96.3%の参加者が「満足～大満足」と回答。今後もテーマを絞り、より深い対話を行う。

運営について

今回は事前準備としてリハーサルや接続確認を重ねて行ったため、運営は概ねスムーズだった。しかし動員人数の増加から、受付時に混雑したため、今後は受付人数を増やして対応する。また、ディスカッションでの登壇者の回答の掛け合いの時間も、増やしたい。

トークセッション要約



ヘーグベリ 駐日スウェーデン大使から 日本の若者へのメッセージ

「モビリティのサステナブルな未来」

- スウェーデンは、遅くとも2045年までには化石燃料に頼らない福祉国家になるというビジョンに向け、産業別のロードマップを作成し、脱化石燃料への移行を加速させ、競争力を高めるため、具体的な目標設定を行っています。
- ロードマップのうち、モビリティの分野では4つの目標があります。2045年までの国内輸送の脱化石燃料化、2030年までの商用トラックの電動化および二酸化炭素排出量を70%削減、自家乗用車においては同じく2030年までに新規販売車数の80%をEVにすることです。運輸・交通分野全体としては、輸送効率の向上・サステナブルで再生可能な燃料へのシフト・好燃費の輸送手段の模索、の3つの分野に重点を当てて取り組んでいます。
- スウェーデン政府は様々なインセンティブによって、環境に配慮した自動車の普及を促しています。例えば、環境に良い自動車を購入すると助成金が支払われ、環境に悪い自動車を購入すると支払わなくてはならない自動車税が増える、というような仕組みです。
- スウェーデンではすでにサステナブルなモビリティの実現に向けて様々な取り組みが行われています。首都ストックホルムでは2017年からバスや電車など全ての交通機関が100%再生可能エネルギーを使用しています。そのほかにも、充電しながら運転ができる新しい道路の開発や、電動小型旅客機、電動ボートの開発が行われています。
- スウェーデンがサステナビリティにここまで積極的に取り組んでいるのは、それがスマートなビジネス戦略でもあるからです。サステナブル、グリーンへの移行は、ただ社会的に「良い」ことをするべきだからではなく、ビジネスではそれが今後生き抜く唯一の方法だという結論に至っています。



ボルボ・カー・ジャパン CEO パーソン社長から 日本の若者へのメッセージ

「2030年までにEV車100%! Volvoのモビリティの未来とは？」

- 自動車産業は、環境に多大な影響を及ぼしてきた一方、サステナブルな社会への変革の伴を握っていると考え、クライメートアクション、サーキュラーエコノミー、エシカルと社会的責任あるビジネスの3つに焦点を当てています。
- Volvo Carsは気候変動を究極の安全性テストと捉え、サステナビリティは安全性と同等に重要であると考えています。使用鉄鋼素材のCO2ゼロを目標を掲げるなど、サステナビリティについてただ語るだけでなく、実際に行動することに重きを置いています。
- Volvo Cars初となる完全EV車 C40 Rechargeの販売にあたり、シェアリングサービスのサブスクリプションも提供しています。これはサーキュラーエコノミーを目指す取り組みの一つで、シェアリングサービスを普及させ、全体の自動車の数を減らすことで渋滞回避、汚染、資源の削減を目指しています。またEV車にシェアリングサービスのオプションをつけることで、購入への抵抗を和らげ、EV車の普及を促進させることができます。
- Volvo Carsはアニマルウェルフェアにも配慮しており、完全なEV車の内装は革製品を使用していません。椅子にはウールやビニールのリサイクル素材を使用することで、クライメートアクション及びサーキュラーエコノミーにもコミットしています。
- サステナビリティへのアプローチは販売する製品だけではなく従業員や経営など包括的なものだと考えています。2021年4月より全ての従業員が24週間の育児休業を取得できるようになりました。Volvo Carsで働く従業員そしてその家族の生活を守ることは社会的責任であり、サステナブルな取り組みに欠かせないことです。

ディスカッション ~登壇者と参加者の対話~

Q.1

日本の若者から登壇者へ質問！

ストックホルム市内の公共交通機関は再エネと聞きましたが、市民は誰でも知っていることですか？

大使： はい、そうだと思います。これは公共交通機関が再生可能エネルギーを使用していることを上手く周知できているからだけではなく、環境に配慮した行動をすることがスウェーデン国民にとって当たり前だからです。

スウェーデンの環境教育はずいぶん昔から行われています。その結果、スウェーデンでは環境に配慮した政策を出さない政治家は選ばれません。つまり、環境に配慮することはスウェーデン国民にとってごく当たり前のことであり、電車やバスが再生可能エネルギーを使用していることも、近年SDGsが広まって特別に捉えているわけではなく、環境に配慮した当然な動きだと考えています。



日本の若者から登壇者へ質問！

日本に住んでいて、サステナビリティについてスウェーデンと日本で違うところがあると感じますか？

Q.2

パーソン社長： スウェーデンに比べて、日本の消費者は未だ価格重視で、サステナビリティな製品・サービスに対してお金を払うという姿勢がまだ十分ではないと印象があります。

やはり教育が大きくサステナビリティな社会にシフトするために重要だと思います。小さい頃から、安い商品には環境、道徳的に見て安いなりの理由があることを教え、理解してもらうことが大事です。



ディスカッション ~登壇者と参加者の対話~

日本の若者から登壇者へ質問！

スウェーデンはサステナブル先進国として知られていますが、大きくシフトするために大切なことはなんだと思いますか？

Q.3



大使：まずは政府がシフトへの道筋を明確に示すべきです。次に、科学技術・研究を用いて新たなサステナブルな人類の生き方を模索しましょう。サステナブルな社会とは、必ずしも人類が環境に多大な影響を与える前の時代に戻ろうということではなく、むしろ次のレベルに進むことです。だから、新しい生き方を研究し、技術の発展を経て見つける必要があります。そして、ビジネスが将来的に利益を追求するにはサステナビリティが不可欠であるとその重要性を理解します。最後に個人が責任をもち、日々の行動に疑問を持つことで大きなシフトにつながると思います。



日本の若者から登壇者へ質問！

Q.4

日本だとサステナブルな製品は値段が高く、経済的余裕のある人のみが購入できるものになっています。スウェーデンではどうですか？



パーソン社長：サステナブルな製品が少し値段が高いというのはスウェーデンでも同じです。安い商品には安いなりの理由があり環境や道徳に配慮して正当に作ると、ある程度コストがかかってしまいます。今はまだサステナブルな製品・サービスの重要性が世界で理解され始めた段階です。今後より多くの消費者がサステナビリティを理解し、需要が大きくなることで、サステナブルな商品の値段の問題も緩和されると思います。



ディスカッション ~登壇者と参加者の対話~

Q.5

日本の若者から登壇者へ質問！

日本の地方がよりサステナブルになるにはどうしたら良いと思いますか？

パーソン社長：Volvo Carsは日本全国からディーラーと契約を結んでおり、まさに今、彼らとサステナビリティに向けて一緒に取り組もうと話を進めています。このようにVolvo Carsとしてはビジネスを通じて日本の地方を支え、よりサステナブルな社会を目指していくことができると思います。

大使：以前、九州のある場所を訪れた際、美術館や洗練されたホテル、ワーキングスペースがあり、ある若者は都市へはいかず、ここで暮らし続けたいと答えていました。このようにモダンで効果的なインセンティブを与えることで、地方に人を呼び込み、コミュニティーレベルで持続可能な取り組みが模索できるのではないのでしょうか。



Message from the Speakers

パーソン社長：あなたたちこそが世の中を変えるチェンジメーカーです。次世代の社会を背負うのはあなたたちです。サステナブルな社会へと産業の背中を押し、世界を変えていってください！

大使：日本の若者から声をあげてほしいです。企業に社会的、倫理的責任を問いかけ、政府に行動することを呼びかけてください。日本が世界的リーダーとして、サステナブルな政策を掲げ、先進的な実践例を出せる国になることを願っています。



参加者からの感想 ~登壇者について~

ヘーグベリ大使への参加者からの感想

- スウェーデンのサステナビリティの進み具合を詳しく知ることができ、知識が深まりました。
- 様々な世代がスウェーデンの価値観に触れることで持続的な社会を志向できるようにしたいです。
- 文化や日常生活のレベルまで、包括的にモビリティとサステナビリティの関係性について知ることができました。
- 教育を十分受けた個人が社会を変えないといけないという言葉に強く胸を打たれました。
- スウェーデンのようにクリエイティブなサステナビリティが浸透してほしいです。
- 政府や行政の発信、インセンティブの重要性に共感しました。
- 日本人として生きていく上で今後必要なことがよくわかりました！
- 日本とスウェーデンの違いを知る機会になり、充実した時間になりました。
- スウェーデンに行きたくくなりました！
- 日本もサステナブルになれるはず、と思いました。
- 大使の言葉や話し方が非常に心に残るものでした。
- 消費者の行動の影響の大きさがわかりました。
- 芯を突いたコメントで心に刺さりました。



パーソン社長への参加者からの感想

- ダイバーシティのお話に感銘を受けました。
- 人にとって環境に関しても快適で安全な車作りをこれからも期待します。
- サステナブルで格差が生まれてはならないという視点が非常に頼もしく感じました。
- 組織のトップが態度を示すべき、という強いメッセージが印象に残りました。
- 車のサブスクなど、知らないことばかりで、たくさん学べました。
- 単に高級な電気自動車を作るのではなく、カーシェアなども含めた話、興味深かったです。
- 自分もこれからの未来を見えるような人間になりたいです。
- Volvo 社の目指す未来がクリアで、その将来性に共感できた。
- Volvo ユーザーとして、熱い想いを聞けたのはとても誇らしい時間でした。
- Volvo 社の取り組みについて知ることができ、非常に財産となりました。
- 電気自動車を通して環境に優しい世界を作りたいという思いが伝わりました。
- Volvo 社の社会・環境への企業努力を深く理解することができました。
- Volvo の車に乗りたくくなりました！ダイバーシティのお話に感銘を受けました。



参加者からの感想 ~サステナブルWORLDについて~

印象に残ったサステナブルな取り組み

- レンタルやサブスクという形での資源利用
- サステナブル意識を改革するために声を上げ続けること
- サステナブルなビジネス創出
- スマートバッテリーテクノロジーへの支援
- 若いうちからのサステナブル教育はとても大切だと思いました
- ゴミを燃料に走るバス
- 設計段階からサステナブルを意識してモノを造る
- 公共交通のサステナビリティ



これならできると思ったサステナブルアクション

- 電気自動車のカーシェアリングを活用したい
- 食品等何かを買うときにその先の生産者を考える
- サスティナブルな製品を進んで購入する
- ペットボトルを購入する前にまずマイボトルを持ち歩くこと
- 友人と環境について話す
- サステナブルな商品を選ぶ
- ローカルの食べ物や生産品を愛好すること
- プラントベースミートを試す



次回に向けて取り上げてもらいたい国・企業

- エストニア
- スペイン
- フィンランド
- オーストラリア
- アフリカの国
- ノルウェイ
- カナダ
- 海外企業と日本企業の対談を聞きたいです
- サーキュラーエコノミーに取り組む企業
- 日本の先進的な企業
- バイオマス関連企業
- 通信・IoT 関係でのサステナブルな取り組みをする企業
- 再生エネルギーに関する企業
- チョコなどのフェアトレードに取り組む企業
- SDGs 先進国北欧の企業
- 「脱資本主義」や経済のスケールダウンに取り組んでいる企業



一般社団法人SWiTCH
www.switch.bio